

【家庭科・小学5年・「食べて元気に」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) ①食事の役割と大切さ、我が国の伝統的な配膳、日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
②体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解する。
③食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解する。
- (思考力、判断力、表現力等) ①おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画を考え、調理の仕方を工夫することができる。
②1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫することができる。
- (学びに向かう力、人間性等) 家族の一員として、生活をより良くしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理、栄養を考えた食事について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

ICT活用のポイント

- 思考ツール（クラゲチャート）を活用した、設定場面における課題やその原因の可視化と共有
- 学習用アプリを活用した、場面設定による課題の焦点化と一食分のメニューを考える際の栄養バランスの可視化と確認

【つかむ】

前時を振り返り、栄養素の体の中での働きについて想起する。

栄養バランスの良い食事にするには、どうしたらよいのだろう。

事例の概要

- ICT機器を活用した思考ツールにより考えを比較、分類、関連付けることや、「栄養バランスチェッカー」（アプリ）により、栄養バランスを視覚的に捉え、考えを深める。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 設定場面における課題の原因を考える際に、思考ツール（クラゲチャート）を使って、児童自身が自らの考えを可視化することでまとめたり、思考ツールを画面共有して他者の考えと比較、分類、関連付けることで日常の生活や食生活と関連させながら原因や課題解決における考えを深めたりする。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 「エースストライカーのスランプの原因を探れ！」（アプリ）による場面設定により、児童が学習課題に関心をもったり、把握したりする。また、「栄養バランスチェッカー」（アプリ）により、五大栄養素の名称と食品分類を視覚化して確認しながらバランスを考えた一食分のメニューを考える。

【追究する①】

思考ツールを使って、設定場面における日常生活や食生活の課題について考える。

【追究する②】

五大栄養素の名称と食品分類を確認しバランスを考えた一食分のメニューを考える。

【家庭科・小学5年・「食べて元気に」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



- 設定場面における課題を考える際に、思考ツールを使って自身の考えをまとめることで、既習事項や日常生活、食生活を踏まえて、原因や解決方法を捉えることができる。
- 思考ツールでまとめた自他の考えを比較、分類、関連付けることで、原因を明確に捉え、考えを深めることができる。

【活用したソフトや機能】

- ・思考ツール
- ・学習支援ソフト

- ・ 導入時に栄養教諭が給食を例に挙げて話をするなど、実際の生活と関連付ける。

【事例におけるICT活用の場面②】



- 学習アプリを使うことで、関心が高まったり、条件設定が明確になり、学習課題を把握したりすることができる。
- 学習用アプリを使うことで、児童が考えたことを確かめながら、五大栄養素のバランスを考えて一食分のメニューを考え、メニューの改善の視点を捉えることができる。

【活用したソフトや機能】

- ・思考ツール
- ・学習支援ソフト

- ・ 児童が考えたメニューに栄養教諭が助言し、実際の生活と関連させたまとめや振り返りを促す。